ICOM

取扱説明書

同時通話型
特定小電力トランシーバー

IC-5010

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた同時通話型特定小電力トランシーバーです。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

本製品の概要について

◎IP67(耐塵形★1と防浸形★2)の性能に対応できるように設計されています。
◎通話モードは、呼び出す相手(自動/チャンネル/個別番号)を選択するときの操作の違いによって、3種類から選択できます。
◎通話形態は、各通話モードごとに2種類あり、特定の人とだけ電話のように通話できる「1対1(ペア)同時通話」と、グループの人が一斉に呼び出されて、応答した人と電話のように通話できる「1対N(複数)同時通話」から選択できます。
◎疑似3者通話を親機(呼び出した局)に設定することで、親機と子機(応答した局)の通話を、通話エリア内のほかの子機でも聞けます。
◎秘話を設定することで、他局に通話内容を盗聴されるのを防止できます。
◎受信専用に設定することで、呼び出しや応答を禁止できます。
◎オートパワーオフ機能により、電源の切り忘れによる電池の消費を防止できます。
◎本製品は、免許不要・資格不要です。

★1 試験用粉塵を1m^{3}あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機の内部に粉塵の浸入がないこと。
★2 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。
一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品について

使用後はリサイクルへ
この製品は、充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

電波法上のご注意

◎本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
◎他局の通信の妨害、および通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
◎使用できるのは、日本国内に限られています。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

はじめに

防塵/防水性能について

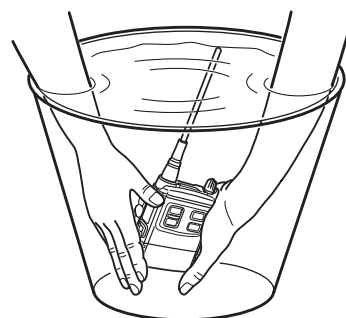
バッテリーパックを無線機本体に装着することで、IP67の防塵/防水性能があります。
次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を保証できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックやマイクロホンの接続ケーブルを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の防水性能について」に指定の別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき
- 使用温度範囲外で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解、または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、別売品を接続するコネクター間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の防水性能について

バッテリーパック(BP-238N)は、無線機本体に装着することで、IPX7の性能になります。
※防水コネクター付きタイピン型マイクロホン(HM-149)のコネクター部はIPX7の防水性能がありますが、マイクロホン部はIPX7ではありません。
※マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(OPC-2277)は、IP54の防水性能があります。
※VOXユニット(VS-2SJ)は、IPX4の防水性能があります。
※上記以外の別売品(☞8章)については、防水構造になっていませんので、ご注意ください。

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、真水で洗い流してください。
このとき、バッテリーパックは、無線機本体から絶対にはずさないでください。
洗い流したあとは、水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。

取り扱い上のご注意

◎本製品を電気自動車やハイブリッドカーなどでご使用になる場合、電気自動車やハイブリッドカーなどに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。
◎アンテナを持って本製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
◎雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手のままでバッテリーパックやマイクロホンの接続ケーブルを付けたり、はずしたりしないでください。
◎蛇口からの水や湯を直接当てないでください。
◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子、および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、定期的にお手入れしてください。
◎磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。
◎本製品の故障、誤動作、不具合などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

もくじ

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、ご使用の前に、必ずお読みください。

◎使用者、および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。

◎次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。

◎お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

⚠危険	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
⚠警告	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠注意	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

■ 無線機本体について

⚠危険

引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。

【免責事項について】
お客様、または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
本製品を人命救助などの目的とした通信に使い、通信の途絶、電池の消耗、故障や誤動作などにより、人命に関わる事態が生じても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

⚠警告

◎民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

◎電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

◎指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎アンテナを持って、本製品を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、破損の原因になります。

◎大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

◎万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

安全上のご注意

■ 無線機本体について(つづき)

⚠注意

◎**インバーター内蔵の電子機器やLED照明器具の周辺で使用しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎**アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**
変形や破損の原因になることがあります。

◎**スピーカー部の穴に針金などを差し込まないでください。**
スピーカー部の穴は、内部に貼られた防水シートにより無線機内外の気圧を調整する機能を兼ね備えています。
防水シートが破損すると、防浸性が失われる原因となることがあります。

◎**無線機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。

◎**直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎**指定以外の別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎**テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎**－10℃～+50℃以外の環境では使用しないでください。**
使用温度範囲外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

◎**清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

■ バッテリーパック(BP-238N)について

⚠危険

◎**コンクリートなどのかたい床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。**
バッテリーパックの性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◎**火の中に投入したり、加熱したりしないでください。**
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎**下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。**

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
- 失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

バッテリーパック(BP-238N)を使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ バッテリーパック(BP-238N)について(つづき)

⚠警告

◎**使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。**
使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎**赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
感電やけがの原因になります。

◎**電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**指定の充電時間以上、充電しないでください。**
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎**指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎**バッテリーパックは、ぬれた状態で、無線機や充電器に装着しないでください。**
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

◎**テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。**
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

⚠注意

◎**下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。**

- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量が [▭] を表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- 長期間使用しないときは、バッテリーパックを無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。
約1ヵ月：－20～＋45℃
約3ヵ月：－20～＋35℃
約1年　：－20～＋25℃
- 0℃～40℃以外の環境で充電しないでください。
- －10℃～＋50℃以外の環境で使用しないでください。
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

◎**清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
乾いたやわらかい布でふいてください。

バッテリーパック(BP-238N)は消耗品ですから、充電を繰り返すと運用時間が少しずつ短くなります。
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパックをご購入ください。

安全上のご注意

■ 充電器について(別売品:BC-161 #01)

⚠危険

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- ●充電器(BC-161 #01)には、弊社指定以外のACアダプターを使用しないでください。
- ●弊社指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
- ●BP-238N専用の充電器です。
- ●分解や改造をしないでください。

⚠警告

◎下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- ●赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- ●BC-161 #01(卓上急速充電器)は、5台以上連結して充電しないでください。
連結して充電できるのは、最大4台までです。
- ●充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ●ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。
- ●電源ケーブルや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- ●電源ケーブルや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- ●充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- ●電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。
- ●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
すぐにACコンセントから電源プラグを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

◎下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- ●0℃〜40℃以外の環境で充電しないでください。
- ●充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- ●湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- ●電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- ●充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

◎直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。

充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。

ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

安全上のご注意

■ アルカリ電池ケース（BP-239）について（別売品）

⚠危険

◎**下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。**

- BP-239（別売品）は、アルカリ乾電池専用の電池ケースです。
- アルカリ乾電池以外の電池を入れないでください。
- 充電しないでください。
- ハンダ付けしないでください。
- アルカリ電池ケースの電池端子間をショートさせないでください。
- ネックレスなどの金属類とアルカリ電池ケースをいっしょに持ち運んだり、放置したりしないでください。
- 火やストーブのそば、炎天下など、高温になる場所での使用、または放置をしないでください。
- 長時間使用しない場合は、液もれのおそれがありますので、アルカリ乾電池を取りはずしてください。
- 乾電池のアルカリ液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触れたりしないでください。
  失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 被覆が傷ついたり、はがれたりしたアルカリ乾電池を使用しないでください。

⚠警告

◎**下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、けがの原因になります。**

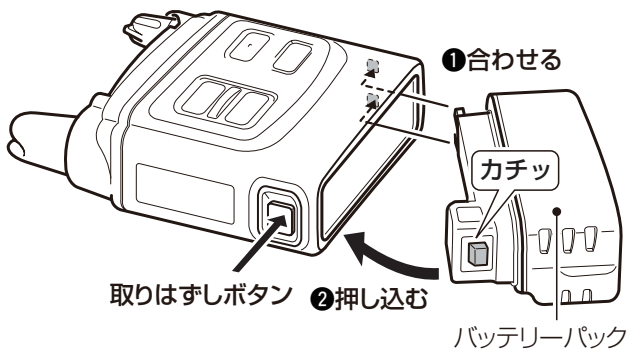
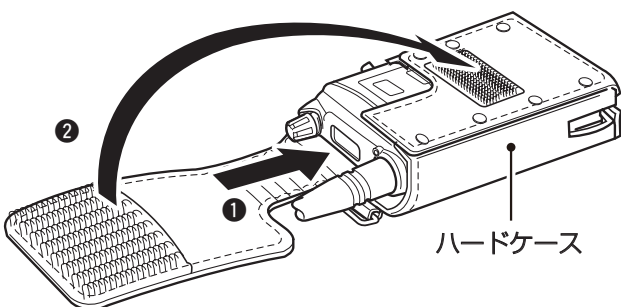
- テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
  アルカリ乾電池から、ガスが発生することがあります。
- 水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。
  また、種類の異なる電池を混ぜたり、新しい電池と古い電池を混ぜたりして使用しないでください。

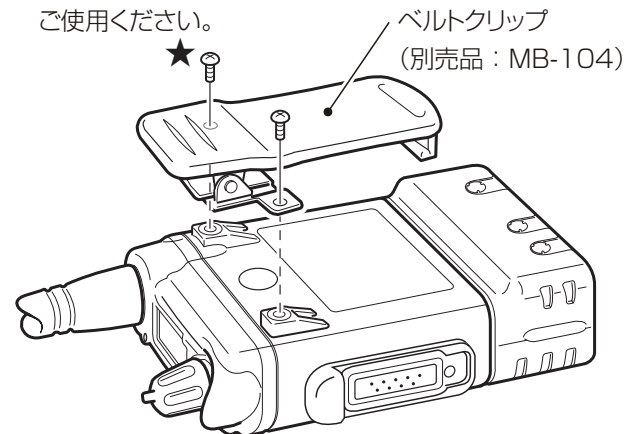
1 ご使用前の準備

■ 付属品の取り付け

【バッテリーパック:BP-238N】

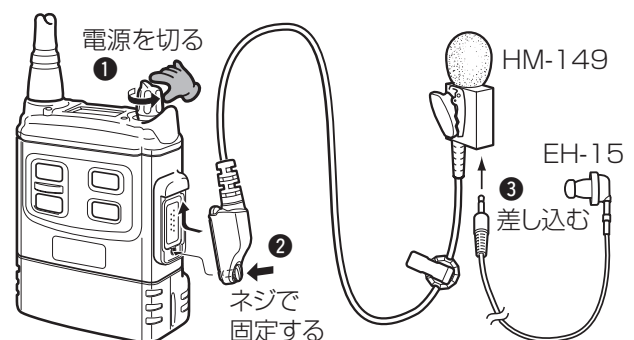
ご購入後、はじめて、ご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。
※充電器は、付属していません。
BC-161 #01とBC-165(BC-161 #01の電源)を別途ご購入ください。
※BC-161 #01の電源には、必ずBC-165をご使用ください。
※充電方法は、「■ BC-161 #01(卓上急速充電器):充電のしかた」をご覧ください。(☞8章)

バッテリーパックを図の[❶]のように合わせてから、[❷]の方向に押し込みます。
※はずすときは、取りはずしボタンを押しながらはずしてください。

【ハードケース:LC-182】
ハードケースを本体に装着した状態で充電できます。
※BP-239(別売品:アルカリ電池ケース)にも使用できます。

■ ベルトクリップの取り付け(別売品)

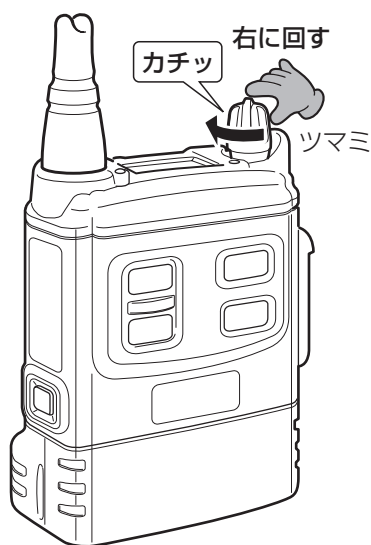
※ハードケース(LC-182/LC-160)との併用は、できません。

★故障の原因になりますので、ベルトクリップに付属するネジ以外は絶対に使用しないでください。

■ マイクロホンとイヤホンの取り付け(別売品)

マイクロホンとイヤホンは、必ず取り付けてください。
取り付けていない場合、通話できませんのでご用意ください。
用途に応じて、弊社別売品(☞8章)から選択してください。

【接続の組み合わせ例:HM-149+EH-15】
電源[❶]を切ってから、防水コネクター付きタイピン型マイクロホン[❷]とイヤホン[❸]を接続します。

■ 電源の入れかたと音量調整について

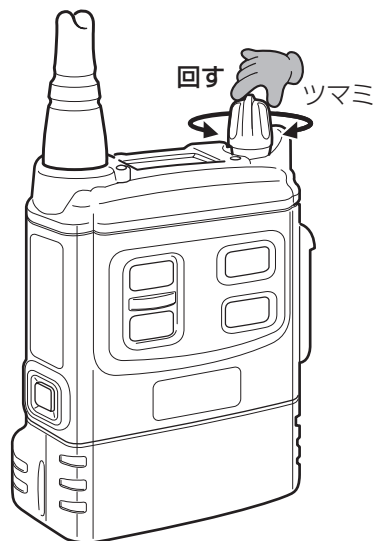
電源を入れる

[電源/音量]ツマミを右に回します。
●**「カチッ」**と音がして、**「ピー」**と鳴ります。
※左方向に回すと、電源が切れます。
※表示部の照明は、電源を入れたときや各部のスイッチを操作したとき、約5秒点灯します。
※電源投入時の各通話モードとその表示については、本書2-2ページで説明しています。

【自局番号表示について】
個別番号選択モード(☞P3-2)に設定された無線機の場合、電源を入れた直後に、MC★と自局番号(例:01)が表示(約1秒)されます。

自局番号表示

★自局番号の左に表示されるMCは、MCAを意味しています。

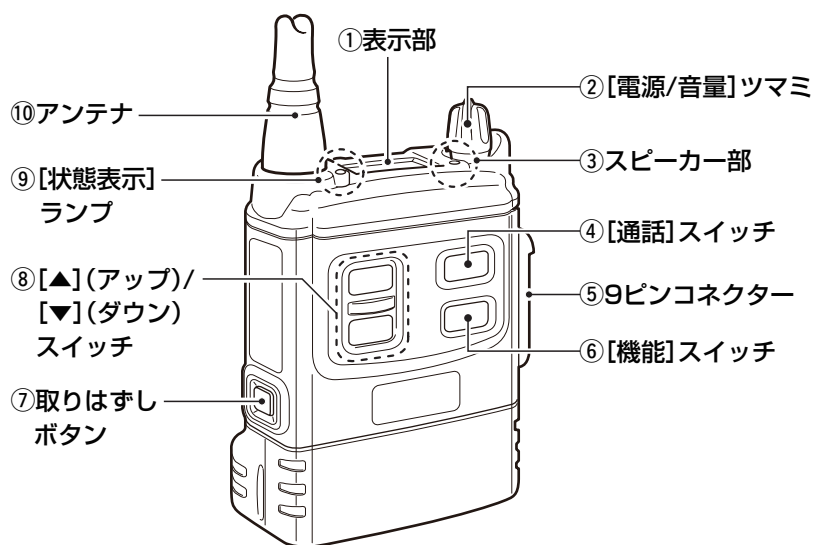
2 音量を調整する

[電源/音量]ツマミを回して、相手の声が聞こえる音量に調整します。

⚠警告

下記の事項を守らないと、音量によっては、聴力障害の原因になります。

- イヤホンなどは、大きな音量で使用しないでください。
- コネクターの取り付けや取りはずしは、大きな異音が出ることがあります。
  電源を切ってから、取り付けや取りはずしをしてください。
  また、イヤホンなどは、耳からはずしてください。
- 本製品の音量は最小にしておき、イヤホンなどを耳に当ててから、聞きやすい音量に調整してください。
  ※何も音が出ていない状態(待ち受け中)での調整は、無線機を操作したときのビープ音が小さく聞こえはじめる程度にしておき、通話を開始してから聞きやすい音量に調整してください。

2 各部の名称と機能

■ 前面部

①表示部(☞P2-2)
運用状態が表示されます。

②[電源/音量]ツマミ
◎電源を「入」/「切」します。
◎コネクターに接続されたスピーカーやイヤホンから聞こえる操作音と通話時の音声を調整します。(☞P1-2)
※スピーカー部から出る操作音は、調整できません。

③スピーカー部
スイッチの操作音だけが鳴ります。

④[通話]スイッチ
◎相手を呼び出すとき、または通話を終了するとき、押します。
◎設定モード(☞P7-2)のときは、押すと、設定内容が確定され、設定モードが解除されます。

⑤9ピンコネクター
別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続します。(☞P1-1)

⚠注意
スピーカー部[③]の穴に針金などを差し込まないでください。
スピーカー部の穴は、内部に貼られた防水シートにより無線機内外の気圧を調整する機能を兼ね備えています。
防水シートが破損すると、防浸性が失われる原因となることがあります。

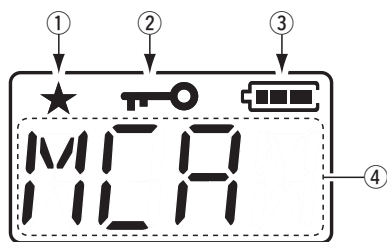
⑥[機能]スイッチ
◎長く押すごとに、ロック機能が「ON」/「OFF」します。(☞P6-1)
◎個別番号選択モード(☞P5-5)のときは、短く押すごとに、個別番号(例:Sc01)とグループ番号(例:Gr01)が切り替わります。
◎設定モード(☞P7-1)のときは、短く押すごとに、設定項目を選択できます。
◎お買い上げの販売店で、全体(ALL)呼び出しが設定されている場合、短く押すと、「ALL」表示に切り替わります。

⑦取りはずしボタン
バッテリーパックやアルカリ電池ケースの取りはずしをするボタンです。

⑧[▲](アップ)/[▼](ダウン)スイッチ
◎チャンネル番号、個別番号、グループ番号を選択するとき、押します。
◎設定モード(☞P7-2)のときは、短く押すごとに、表示されている設定項目の設定値を選択できます。

⑨状態表示ランプ
通話の状態を示します。
● 橙色で点滅:呼び出し中
● 赤色で点灯:送信/送受信
● 緑色で点灯:受信

⑩アンテナ
電波を発射、または受信する部分です。
※電波法上、取りはずしできない構造になっています。

■ 表示部

①★

送信出力の設定(☞P7-3)が10mWに設定されているとき、表示します。

②

ロック機能(☞P6-1)が動作中に点灯します。

③

電池の残量を4段階で表示します。

④運用状態表示

運用状態(表示例:MCA)を表示します。

※設定により、チャンネル番号(例:Ch01)、個別番号(例:Sc01)、グループ番号(例:Gr01)などを表示します。

※設定モード(☞P7-1)では、設定項目と、その設定値を表示します。

■ 電池の残量表示について

表示は、バッテリーパック、またはアルカリ電池ケース(別売品)の電池残量に応じて変化します。

※残量が少なくなりましたら、バッテリーパックの場合は、充電し、電池の場合は、新しいアルカリ乾電池と交換してください。

表示	電池の残量表示について
	十分に容量があります。
	◎ バッテリーパックの場合は、充電する時期です。(短時間の運用は可能) ◎ アルカリ電池ケースの場合は、電池を交換する時期です。(短時間の運用は可能)
	◎ バッテリーパックの場合は、すぐに使えなくなりますので、充電が必要です。 ◎ アルカリ電池ケースの場合は、電池の交換が必要です。
点滅	ほとんど容量がなく、表示が点滅し、残量警告音が鳴ります。(無線機の使用はできません。)

■ 各通話モードとその表示について

◎**チャンネル自動(MCA)モード**(☞P3-1、P4-1)

チャンネルは、MCAと表示されます。

◎**チャンネル手動モード**(☞P3-1、P4-2)

選択したチャンネル番号を表示します。

(表示例:Ch01)

◎**個別番号選択モード**(☞P3-2、P4-3)

電源を入れた直後、MC★と自局番号(例:01)が表示(約1秒)されたあと、選択した個別番号(表示例:Sc01)を表示します。

★MCは、MCAを意味しています。

自局番号表示

↓約1秒

個別番号表示

■ 電池の残量警告音について

電池の残量表示が 点滅 になると、残量警告音が本製品に接続されたイヤホンと、無線機本体のスピーカー部から約3分ごとに繰り返し**「ピーピーピー」**と鳴ります。

残量警告音が鳴り出したら、すぐに新しいアルカリ乾電池(アルカリ電池ケースの場合)と交換してください。

また、バッテリーパックの場合は、充電してください。

※残量表示が 点滅 の状態で使用すると、「Lo」表示に切り替わり、残量警告音が**「ピーピピピ･･･」**と鳴り、2秒後に、無線機の電源が自動的に切れます。

3 各通話モードの概要について

本製品には、3種類の通話モードがあります。

◎チャンネル自動(MCA)モード　◎チャンネル手動モード　◎個別番号選択モード(☞P3-2)

※各通話モードでの通話形態は、1対1(ペア)、または1対N(複数)を設定できます。
　通話モードや通話形態の設定が異なる相手とは、通話できません。
　通話モードや通話形態の変更方法は、本書4章をご覧ください。

※各通話モードで、全体呼び出し(ALL)や複数のグループ構成でご使用になる場合は、設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

■ チャンネル自動(MCA)モード

「MCA」を選択している無線機同士が通話できるモードです。

チャンネルは、MCAと表示されます。

MCA 表示

※MCAは、Ch01～Ch18の範囲で、自動的に空きチャンネルを探し出し、その空きチャンネルへ自動で移動して通話できる方式のことです。

通話形態は、下記のどちらかに設定できます。
(通話相手と同じ通話形態に設定してください。)

1対1(ペア)同時通話

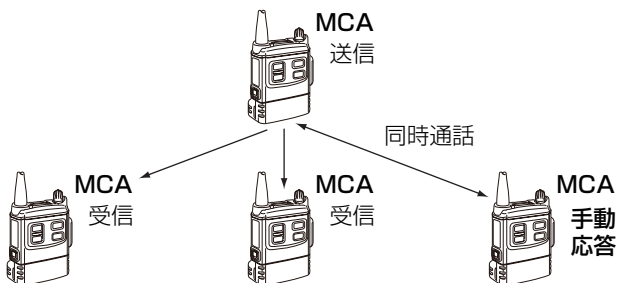
電話のように通話できます。

※呼び出すと、相手が自動的に送信状態(自動応答)になり、同時通話できます。

1対N(複数)同時通話

グループに所属する相手が一斉に呼び出され、応答した人とだけ、電話のように通話できます。

※応答した人が通話を切ると、別の人が応答できます。

※同時通話中、同じグループの別の人は、呼び出し(送信)をした局の音声だけが聞こえます。

※疑似3者通話(☞P6-1)は、呼び出しをする無線機に設定すると、同じグループの別の人が、同時通話中の両者の音声を聞けるようになります。

■ チャンネル手動モード

チャンネル(Ch01～Ch27)を選択するモードです。

同じチャンネル番号の相手を呼び出せます。

チャンネル番号表示例

※Ch19～Ch27は、設定を変更すると選択できます。(☞P7-4)

※「MCA」を選択することもできますので、チャンネル自動(MCA)モードと併用できます。

通話形態は、下記のどちらかに設定できます。
(通話相手と同じ通話形態に設定してください。)

1対1(ペア)同時通話

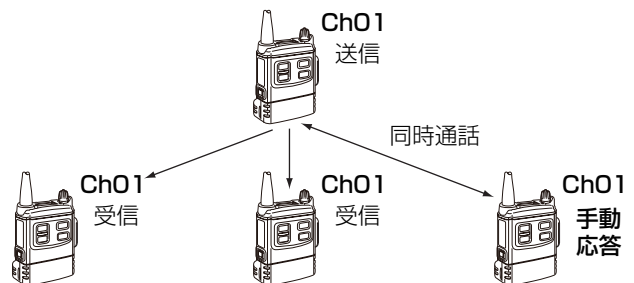
電話のように通話できます。

※呼び出すと、相手が自動的に送信状態(自動応答)になり、同時通話できます。

1対N(複数)同時通話

グループに所属する相手が一斉に呼び出され、応答した人とだけ、電話のように通話できます。

※応答した人が通話を切ると、別の人が応答できます。

※同時通話中、同じグループの別の人は、呼び出し(送信)をした局の音声だけが聞こえます。

※疑似3者通話(☞P6-1)は、呼び出しをする無線機に設定すると、同じグループの別の人が、同時通話中の両者の音声を聞けるようになります。

■ 個別番号選択モード

個別番号(Sc01～Sc99)を選択するモードです。
呼び出したい相手だけを個別に呼び出せます。

個別番号表示例

個別番号とは、個々の無線機を識別するため、相手側に設定された自局番号のことです。

※チャンネルは、MCA方式により、Ch01～Ch18の範囲で、自動的に空きチャンネルを探し出し、その空きチャンネルへ自動で移動して通話できます。

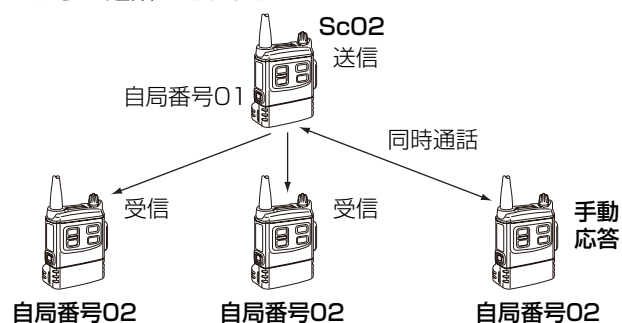
通話形態は、下記のどちらかに設定できます。
(通話相手と同じ通話形態に設定してください。)

1対1(ペア)同時通話

電話のように通話できます。

※個別番号(例:Sc02)を選択して呼び出すと、相手(例:自局番号02)が自動的に送信状態(自動応答)になり、同時通話できます。

1対N(複数)同時通話

選択した個別番号(例:Sc02)と同じ番号(例:自局番号02)の相手が一斉に呼び出され、応答した人とだけ、電話のように通話できます。

※応答した人が通話を切ると、別の人が応答できます。

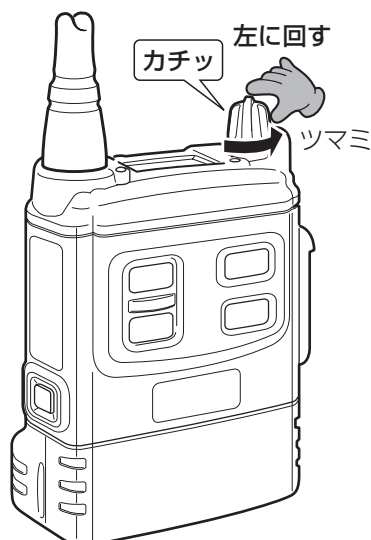
※同時通話中、同じ番号の別の人は、呼び出し(送信)をした局の音声だけが聞こえます。

※各無線機に異なる自局番号を設定する場合は、グループ呼び出し、全体呼び出しを使用すると、一斉に呼び出しできます。
　グループ呼び出し、全体呼び出しをご使用になるには、設定が必要ですので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※疑似3者通話(☞P6-1)は、呼び出しをする無線機に設定すると、同じ自局番号の別の人が、同時通話中の両者の音声を聞けるようになります。

4　通話モードを変更するには

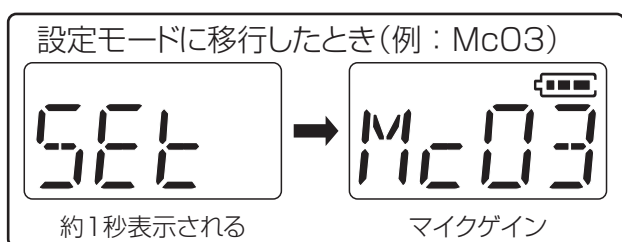
■ チャンネル自動(MCA)モードに設定する場合

1　電源を切る

[電源/音量]ツマミを**「カチッ」**と音がするまで、左に回します。

2　設定モードで起動させる

[▲]と**[▼]**スイッチを同時に押しながら、**[電源/音量]**ツマミを回します。

- **「ピピッ」**と鳴り、「SEt」を表示(約1秒)後、設定項目(例表示:Mc03)が表示されます。

※設定モードのときは、通話できません。

3　設定項目を選択する

[機能]スイッチを繰り返し押して、設定項目を選択します。
※選択する設定項目は、下記の一覧表をご覧ください。

設定項目	項目名称表示	設定値	詳細
個別呼び出し★1	Ic	0F	P7-3
自局グループ番号★2	Gr	00~99	
疑似3者通話★3	P3	0F.0N	
チャンネル	Ch	M	P7-4
1対N(複数)同時通話★4	In	1、n	

★1、★4の設定が異なる相手とは通話できません。
★2～★4は、使用状況に合わせて選択してください。

4　設定値を変更する

[▲]、または**[▼]**スイッチを押します。

- 変更すると、設定値が点滅します。

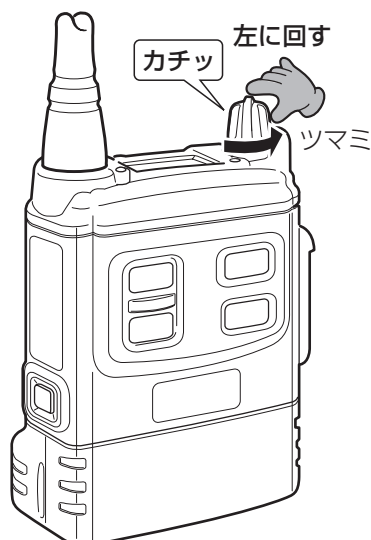
※手順3と4の操作を繰り返して、一覧表に記載のほかの設定項目も設定します。

5　設定を終了する

[通話]スイッチを押します。

- **「ピー」**と鳴り、設定値が確定され、設定モードが解除されます。

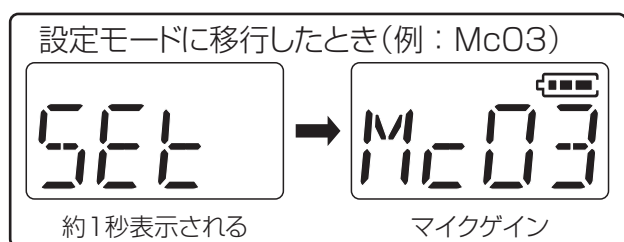
■ チャンネル手動モードに設定する場合

1　電源を切る

[電源/音量]ツマミを**「カチッ」**と音がするまで、左に回します。

2　設定モードで起動させる

[▲]と**[▼]**スイッチを同時に押しながら、**[電源/音量]**ツマミを回します。

- **「ピピッ」**と鳴り、「SEt」を表示(約1秒)後、設定項目(例表示：Mc03)が表示されます。

※設定モードのときは、通話できません。

3　設定項目を選択する

[機能]スイッチを繰り返し押して、設定項目を選択します。
※選択する設定項目は、下記の一覧表をご覧ください。

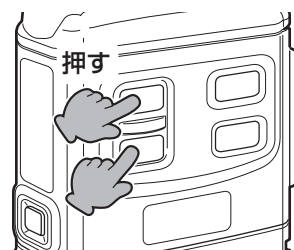
設定項目	項目名称表示	設定値	詳細
個別呼び出し★1	Ic	OF	P7-3
自局グループ番号★2	Gr	00~99	
疑似3者通話★3	P3	OF.ON	
チャンネル	Ch	18.27	P7-4
1対N(複数)同時通話★4	In	1.n	

★1、★4の設定が異なる相手とは通話できません。
★2〜★4は、使用状況に合わせて選択してください。

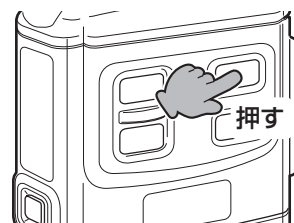
4　設定値を変更する

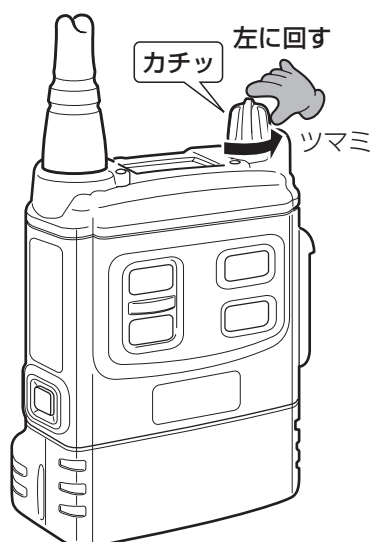
[▲]、または**[▼]**スイッチを押します。

- 変更すると、設定値が点滅します。

※手順3と4の操作を繰り返して、一覧表に記載のほかの設定項目も設定します。

5　設定を終了する

[通話]スイッチを押します。

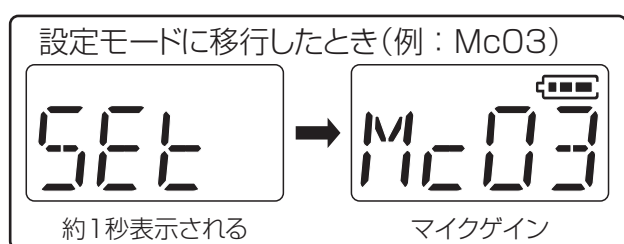
- **「ピー」**と鳴り、設定値が確定され、設定モードが解除されます。

■ 個別番号選択モードに設定する場合

1 電源を切る

[電源/音量]ツマミを**「カチッ」**と音がするまで、左に回します。

2 設定モードで起動させる

[▲]と**[▼]**スイッチを同時に押しながら、**[電源/音量]**ツマミを回します。

● **「ピピッ」**と鳴り、「SEt」を表示(約1秒)後、設定項目(例表示:Mc03)が表示されます。

※設定モードのときは、通話できません。

3 設定項目を選択する

[機能]スイッチを繰り返し押して、設定項目を選択します。

※選択する設定項目は、下記の一覧表をご覧ください。

設定項目	項目名称表示	設定値	詳細
個別呼び出し★1	Ic	ON	P7-3
自局番号★2	Id	01~99	
自局グループ番号★3	Gr	00~99	
疑似3者通話★4	P3	OF、ON	
1対N(複数)同時通話★5	In	1、n	P7-4

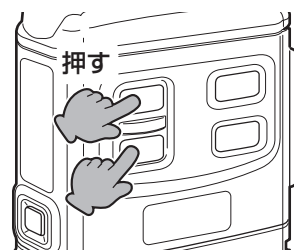
★1、★5の設定が異なる相手とは通話できません。

★2〜★5は、使用状況に合わせて選択してください。

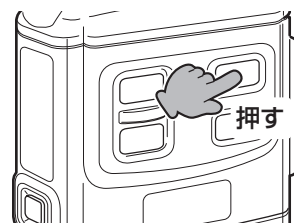
4 設定値を変更する

[▲]、または**[▼]**スイッチを押します。

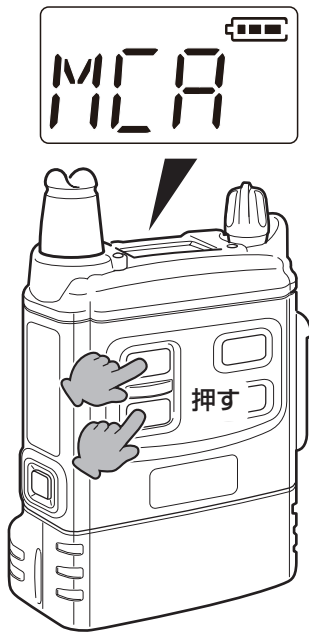
● 変更すると、設定値が点滅します。

※手順3と4の操作を繰り返して、一覧表に記載のほかの設定項目も設定します。

5 設定を終了する

[通話]スイッチを押します。

● **「ピー」**と鳴り、設定値が確定され、設定モードが解除されます。

■ チャンネル自動(MCA)モードで通話する場合

1 チャンネルをMCAにする

チャンネル番号(例:Ch01)が表示されている場合は、[▲]、または[▼]スイッチを押して、「MCA」表示にします。
※グループ番号(例:Gr01)、または全体呼び出し(例:ALL)が表示されている場合は、**[機能]**スイッチを短く押して、チャンネル表示に切り替えてください。

下記の操作でご使用になるには、設定が必要ですので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【グループ番号の選択について】

◎**[機能]**スイッチを押して、グループ番号(表示例:Gr02)が表示される場合は、通話相手のグループ番号も選択してください。

グループ番号表示

[▲]、または[▼]スイッチで選択できます。
※選択したグループ番号と異なる相手は、呼び出しできません。

◎**[機能]**スイッチを押しても、グループ番号が表示されない場合は、「MCA」表示の状態で、同じ自局グループ番号(☞P7-3)に設定された相手だけを呼び出しできます。

【全体呼び出しについて】

[機能]スイッチを押して、「ALL」が表示される場合、グループ番号に関係なく、すべての相手を呼び出しできます。

全体呼び出し表示

2 相手を呼び出す

① **[通話]**スイッチを押します。
●**「ピッ」**と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。
② 状態表示ランプが赤色で点灯したら、マイクロホンに向かって呼びかけます。
※相手が通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、**「プッ」**と鳴って、状態表示ランプが消灯します。

【マイクロホンについて】

通話には、マイクロホンとイヤホンの接続が必要です。(☞P1-1)
マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。
マイクロホンを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

■ チャンネル自動（MCA）モードで通話する場合（つづき）

3 呼び出しに応答する

1対1（ペア）同時通話の場合

呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
状態表示ランプが赤色に点灯して、自動的に送信状態になりますので、マイクロホンに向かって、話しかけます。
※全体呼び出し（表示：ALL）に応答するときは、状態表示ランプが緑色に点灯しますので、**[通話]**スイッチを押します。

1対N（複数）同時通話の場合

①呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
　●状態表示ランプは、緑色に点灯します。
②応答する場合は、**[通話]**スイッチを押します。
　●「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。
③マイクロホンに向かって、話しかけます。

4 通話を切る

呼び出した局が[通話]スイッチを押したときは

状態表示ランプが消灯し、通話が切れます。
※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。

応答した局が[通話]スイッチを押したときは

1対1（ペア）同時通話の場合

通話は切れません。★
★自動再接続機能（☞P6-2）により、通話が切れて約2秒後に、呼び出した局が自動で再接続を開始します。
※応答した局は、自動的に送信状態（自動応答）に戻ります。

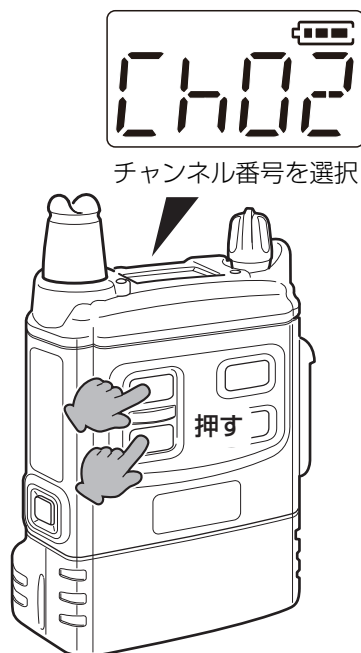
1対N（複数）同時通話の場合

通話は切れません。
※応答した局は、呼び出しを受けたときの状態（状態表示ランプが緑色で点灯）に戻ります。
※ほかの局は、呼び出した局が**[通話]**スイッチを押して通話を切るまで、何度でも応答できます。

■ チャンネル手動モードで通話する場合

1 チャンネル番号を選択する

[▲]、または[▼]スイッチを押して、通話相手と同じチャンネル番号(表示例:Ch02)を選択します。

※グループ番号(例:Gr01)、または全体呼び出し(例:ALL)が表示されている場合は、**[機能]**スイッチを短く押して、チャンネル表示に切り替えてください。

2 相手を呼び出す

① **[通話]**スイッチを押します。

● **「ピッ」**と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。

② 状態表示ランプが赤色で点灯したら、マイクロホンに向かって呼びかけます。

※相手が通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、**「プッ」**と鳴って、状態表示ランプが消灯します。

下記の操作でご使用になるには、設定が必要ですので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【グループ番号の選択について】

◎ **[機能]**スイッチを押して、グループ番号(表示例:Gr02)が表示される場合は、通話相手のグループ番号も選択してください。

グループ番号表示

[▲]、または[▼]スイッチで選択できます。

※選択したグループ番号と異なる相手は、呼び出しできません。

◎ **[機能]**スイッチを押しても、グループ番号が表示されない場合は、チャンネル番号表示の状態で、同じ自局グループ番号(☞P7-3)に設定された相手だけを呼び出しできます。

【全体呼び出しについて】

[機能]スイッチを押して、「ALL」が表示される場合、グループ番号に関係なく、すべての相手を呼び出しできます。

全体呼び出し表示

【マイクロホンについて】

通話には、マイクロホンとイヤホンの接続が必要です。(☞P1-1)

マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。

マイクロホンを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

■ チャンネル手動モードで通話する場合（つづき）

3 呼び出しに応答する

1対1（ペア）同時通話の場合

呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
状態表示ランプが赤色に点灯して、自動的に送信状態になりますので、マイクロホンに向かって、話しかけます。

※全体呼び出し（表示：ALL）に応答するときは、状態表示ランプが緑色に点灯しますので、**[通話]**スイッチを押します。

1対N（複数）同時通話の場合

①呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
●状態表示ランプは、緑色に点灯します。
②応答する場合は、**[通話]**スイッチを押します。
●「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。
③マイクロホンに向かって、話しかけます。

4 通話を切る

呼び出した局が[通話]スイッチを押したときは

状態表示ランプが消灯し、通話が切れます。
※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。

応答した局が[通話]スイッチを押したときは

1対1（ペア）同時通話の場合

通話は切れません。★

★自動再接続機能（☞P6-2）により、通話が切れて約2秒後に、呼び出した局が自動で再接続を開始します。

※応答した局は、自動的に送信状態（自動応答）に戻ります。

1対N（複数）同時通話の場合

通話は切れません。

※応答した局は、呼び出しを受けたときの状態（状態表示ランプが緑色で点灯）に戻ります。

※ほかの局は、呼び出した局が**[通話]**スイッチを押して通話を切るまで、何度でも応答できます。

■ 個別番号選択モードで通話する場合

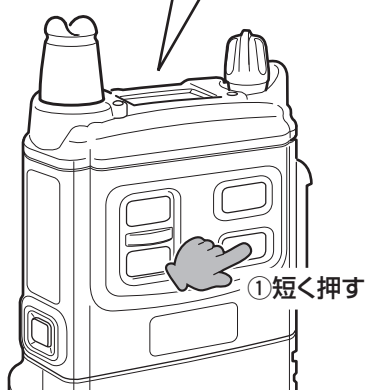
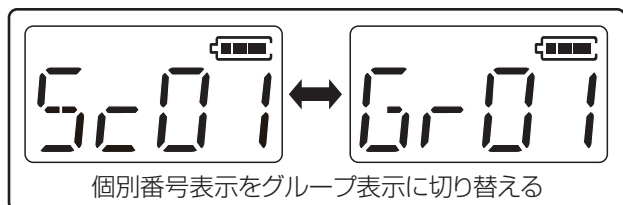
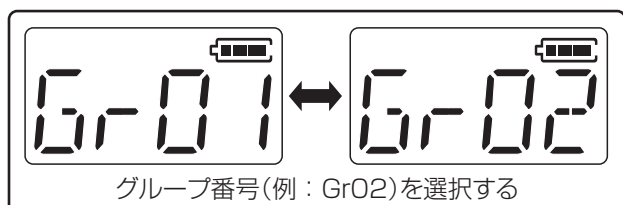
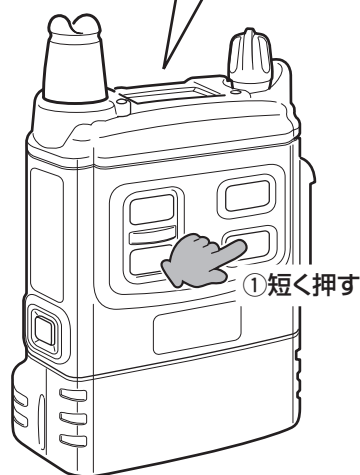
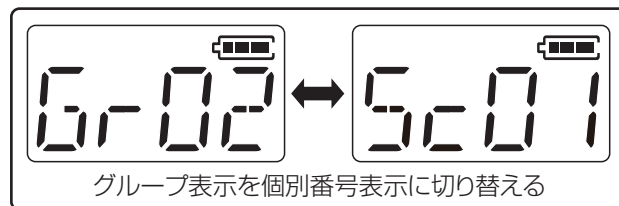
1 相手局番号を合わせる

個別呼び出しする場合

※お買い上げ時の設定によっては、①と②の操作が不要な場合があります。

①**[機能]**スイッチを短く押して、グループ番号表示に切り替えます。

※押すごとに、個別番号表示(表示例:Sc01)とグループ表示(表示例:Gr01)が切り替わります。

※全体呼び出し(☞P5-6)が設定されている場合は、押すごとに、「Sc01」→「Gr01」→「ALL」の順に切り替わります。

②**[▲]**、または**[▼]**スイッチを押して、個別呼び出しをする通話相手のグループ番号(表示例:Gr02)を選択します。

③**[機能]**スイッチを短く押します。
個別番号(表示例:Sc01)表示にします。

④**[▲]**、または**[▼]**スイッチを押して、通話相手の個別番号(表示例:Sc02)を選択します。

■ 個別番号選択モードで通話する場合

相手局番号を合わせる

個別呼び出しする場合(つづき)

【Sc0 - ～Sc9 -、Sc - 0～Sc - 9の個別番号について】

10局だけを一斉に呼び出しできます。

下記の個別番号をご使用になるには、設定が必要ですので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

設定することで、下記のような呼び出しができます。

「-」部分は、0～9のすべての番号を意味します。

◎「Sc0-」表示は、00～09の10局

◎「Sc9-」表示は、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99の10局

◎「Sc -0」表示は、00、10、20、30、40、50、60、70、80、90の10局

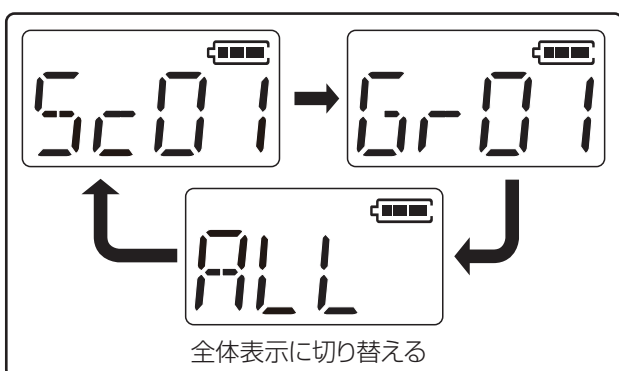
◎「Sc -9」表示は、09、19、29、39、49、59、69、79、89、99の10局

全体呼び出しをする場合

全体呼び出しをご使用になるには、設定が必要ですので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

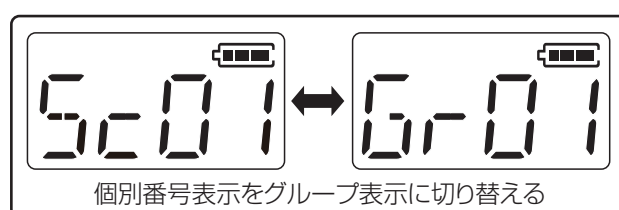
グループ番号や個別番号に関係なく、すべての相手を一斉に呼び出しできます。

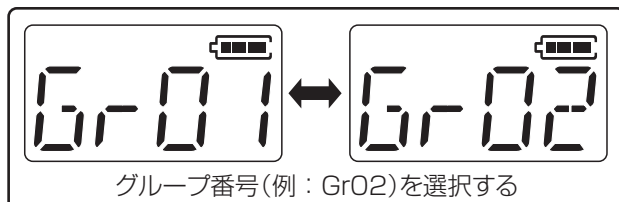
[機能]スイッチを短く押して、「ALL」表示に切り替えます。

※押すごとに、個別番号表示(例:Sc01)→グループ表示(例:Gr01)→全体表示(例:ALL)の順に切り替わります。

グループ呼び出しする場合

①**[機能]**スイッチを短く押して、グループ番号表示に切り替えます。

※押すごとに、個別番号表示(例:Sc01)とグループ表示(例:Gr01)が切り替わります。

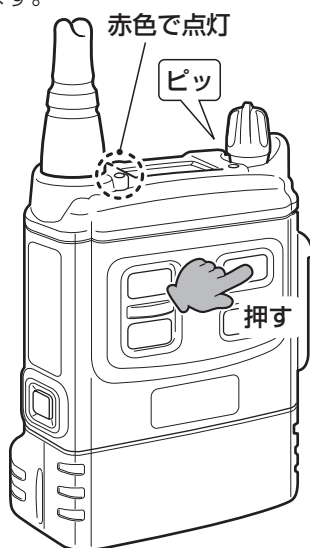
※全体呼び出しが設定されている場合は、押すごとに、「Sc01」→「Gr01」→「ALL」の順に切り替わります。

②**[▲]**、または**[▼]**スイッチを押して、個別呼び出しをする通話相手のグループ番号(表示例:Gr02)を選択します。

※自局と異なるグループ番号の選択には、設定が必要ですので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 個別番号選択モードで通話する場合(つづき)

2 相手を呼び出す

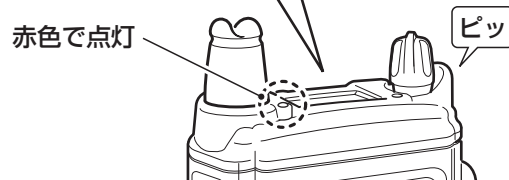
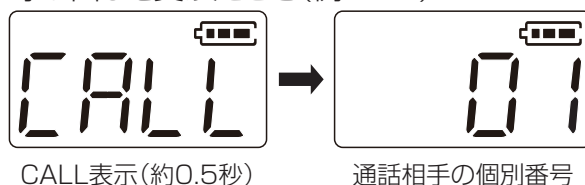
①[通話]スイッチを押します。
- 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。

②状態表示ランプが赤色で点灯したら、マイクロホンに向かって呼びかけます。

※相手が通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、「プッ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。

【マイクロホンについて】
通話には、マイクロホンとイヤホンの接続が必要です。
(☞P1-1)
マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。
マイクロホンを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

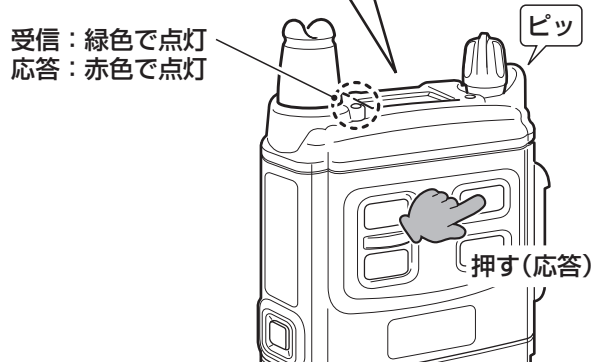
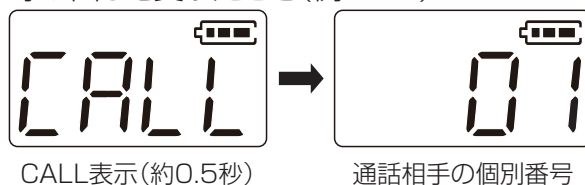
3 呼び出しに応答する

1対1(ペア)同時通話の場合

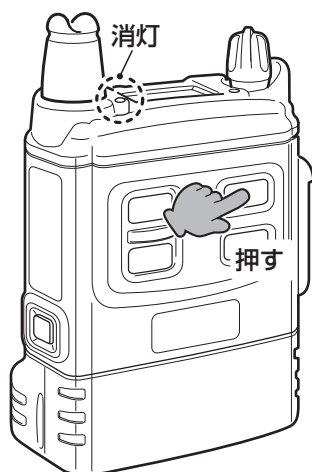
個別呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。状態表示ランプが赤色に点灯して、自動的に送信状態になりますので、マイクロホンに向かって、話しかけます。
※グループ呼び出し(表示:Gr)、全体呼び出し(表示:ALL)に応答するときは、状態表示ランプが緑色に点灯しますので、[通話]スイッチを押します。

1対N(複数)同時通話の場合

①呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
- 状態表示ランプは、緑色に点灯します。

②応答する場合は、[通話]スイッチを押します。
- 「ピッ」と鳴って状態表示ランプが赤色に点灯します。

③マイクロホンに向かって、話しかけます。

■ 個別番号選択モードで通話する場合（つづき）

4 通話を切る

呼び出した局が[通話]スイッチを押したときは

状態表示ランプが消灯し、通話が切れます。
※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。

応答した局が[通話]スイッチを押したときは

1対1(ペア)同時通話の場合

通話は切れません。★

★自動再接続機能(☞P6-2)により、通話が切れて約2秒後に、呼び出した局が自動で再接続を開始します。
※応答した局は、自動的に送信状態(自動応答)に戻ります。

1対N(複数)同時通話の場合

通話は切れません。
※応答した局は、呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色で点灯)に戻ります。
※ほかの局は、呼び出した局が**[通話]**スイッチを押して通話を切るまで、何度でも応答できます。

■ 通話するときのアドバイス

通話時間の制限について

送信出力の設定が10mWの場合、連続して通話できる時間は、あわせて「3分」です。

※Ch19〜Ch27では、送信出力の設定(☞P7-3)に関わらず、「3分」に制限されます。
※自局、または相手局が連続送信となるような通話でも、「3分」に制限されます。
※「3分」の10秒前になると、**「ピッ」**と鳴ります。
※「3分」経過すると、**「プップッピ」**と警告音が鳴り、自動的に通話が切れます。
※「3分」経過により通話が切れると、2秒間は**[通話]**スイッチを押しても送信できません。
再度、呼び出しするときは、通話が切れて2秒後に、**[通話]**スイッチを押してください。
なお、自動再接続機能(☞P6-2)が設定されている場合は、「3分」経過して通話が切れると、その2秒後に自動的に再接続を開始します。

通話範囲について

通話距離の目安(中継装置を使用しない場合)

- 見通しのよい場所：約2km
- 郊外　　　　　　：約1〜2km
- 高速道路　　　　：約500m
- 市街地　　　　　：約100〜200m

※周囲の状況(建物や山など)により異なります。
通話範囲であっても、建物のかげなどに入ると、相手の声が聞こえにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して通話してください。

混信防止(キャリアセンス)機能について

送信しようとするチャンネルで、先に通話している局が存在した場合、送信を禁止します。
[通話]スイッチを押しても、**「ブッ」**と鳴って、送信できない場合は、他局の通話が終了してから送信しなおしてください。

電波干渉について

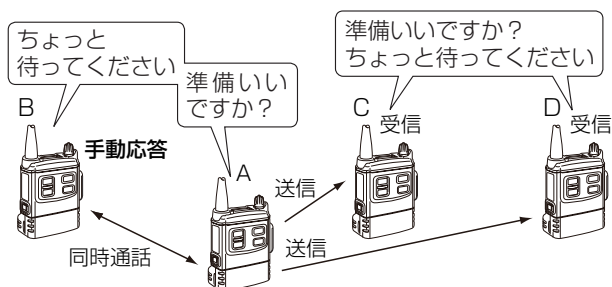
比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。
このような混信は、グループごとにチャンネルの組み合わせを適切に設定することで、電波干渉を防止できます。

6 そのほかの機能について

■ 疑似3者通話機能について

「1対N(複数)同時通話」で呼び出しする無線機で使用できます。

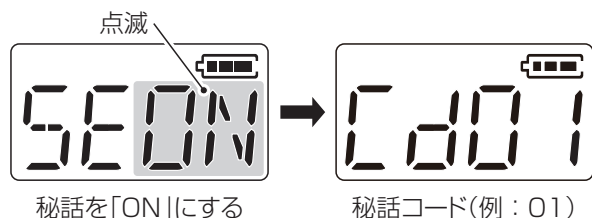
この機能を設定すると、同時通話中の両者(A、B)の音声が、一斉呼び出しを受信中のほかの相手(C、D)でも聞けるようになります。

※設定モード(☞7章)から設定できます。

■ 秘話機能

秘話機能が設定されていない本製品を使用しているほかの相手に、通話内容が盗聴されるのを防止できます。

※設定モード(☞7章)から、下図の設定項目で秘話機能(表示例:SEON)と秘話コード(表示例:Cd01)を設定してください。

※秘話機能の設定と秘話コードは、通話する相手の無線機と同じ設定にしてください。

秘話を「ON」にする　　秘話コード(例:01)

※機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者に よる盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に無線機のスイッチに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

[機能]スイッチを**「ピッ、ピピッ」**と鳴るまで長く押します。

● 「🔑」を表示します。

※同じ操作をすると、解除できます。

【ロック中にできる操作】

◎ロック機能の解除

◎ **[通話]**スイッチ(呼び出し/応答)の操作

◎音量の調整

◎電源の「入」/「切」

■ 自動再接続機能

相手局が圏外になって通話が切れたり、連続通話時間制限(3分間)(☞P5-8)により通話が切れたりしたとき、自動で再接続を開始する機能です。

※設定モード(☞7章)から設定できます。

※連続通話時間が「3分」に制限されるのは、送信出力が「10mW」で通話したときです。
また、自局、または相手局が連続送信となるような通話でも、「3分」に制限されます。

※Ch19〜Ch27では、[送信出力](☞P7-3)の設定に関わらず、連続通話時間が3分に制限されます。

※自動再接続機能の設定が「AcON」で、[1対N(複数)同時通話](☞P7-4)を「1n 1」で通話している場合、応答側の無線機が**[通話]**スイッチを押したときも自動再接続されます。

※OPC-636(☞8-5章)を使用時は、通話終了後も赤色のスイッチを押しつづけるか、白色のスイッチを押し込まれた状態にすると、自動再接続機能が動作します。

※VS-2SJ(☞8-5章)を使用時は、通話終了後もノンロック(未固定)式スイッチを押しつづけるか、スライド式スイッチを上側にスライドさせた状態にすると、自動再接続機能が動作します。

■ パワーON自動接続機能

特定の人(1対1)とだけ同時通話するような場合など、無線機の電源を入れるだけで、通話相手を自動で呼び出して接続するとき設定します。

※電源を入れると、電源を切る直前の状態で、接続を開始します。

※通話相手が電源を切っているときは、自動で接続を開始しますが、しばらくすると待ち受け状態に戻ります。

※設定モード(☞7章)で設定できます。

※OPC-636(☞8-5章)と併用する場合の操作
赤色のスイッチの場合は、押しながら無線機の電源を入れてください。
白色のスイッチの場合は、押し込まれた状態にしてから無線機の電源を入れてください。

※VS-2SJ(☞8-5章)と併用する場合の操作
ノンロック(未固定)式スイッチの場合は、押しながら無線機の電源を入れてください。
スライド式スイッチの場合は、上側にスライドさせてから無線機の電源を入れてください。

■ 受信専用機能

無線機を受信専用にする設定です。
呼び出しや応答ができません。

※設定モード(☞7章)で設定できます。

◎**[通話]**スイッチを押すと、右図のように、「onLy」と表示されます。

[通話]スイッチを押したときの表示

◎呼び出しを受けても、他局(受信専用で使用しないほかの無線機)が応答するまで、受信状態になりません。

◎**[機能]**スイッチを短く押しても、動作しません。

■ オートパワーオフ機能

自動的に無線機の電源を切る機能です。
電源の切り忘れによる電池の消費を防止できます。

※オートパワーOFFを設定すると、待ち受け状態で音量調整以外に何も操作しない状態がつづくと、オフタイマーがスタートします。

※オフタイマーが動作中に、呼び出しを受けたり、途中で操作(音量調整を除く)したりすると、オフタイマーがその時点から再スタートします。

※時間になると、**「ピピピピピ」**と鳴って、電源が切れます。

※設定モードの状態では、動作しません。

※設定モード(☞7章)で設定できます。

7 各種機能の設定

■ 設定項目一覧

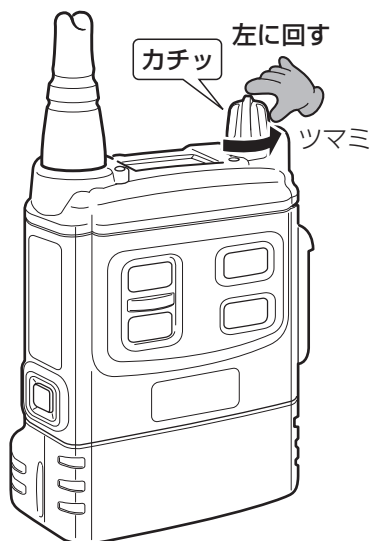
設定モードでは、以下の設定項目が変更できます。

項目名称	項目名称表示	初期値	参照
①マイク感度	Mc	03	P7-2
②反転表示	dP	N	
③接続ケーブルの選択	Cb	St	
④送信出力	Po	01	P7-3
⑤スケルチレベル	S9	02	
⑥個別呼び出し	Ic	OF	
⑦自局番号★1	Id	01	
⑧自局グループ番号	Gr	01	
⑨疑似3者通話	P3	OF	
⑩チャンネル	Ch	18	P7-4
⑪1対N(複数)同時通話	In	1	
⑫受信専用	Ro	OF	
⑬秘話	SE	OF	
⑭秘話コード★2	Cd	14	
⑮オートパワーオフ	At	OF	
⑯自動再接続	Ac	ON	P7-5
⑰パワーON自動接続	Pc	OF	

★1　⑥の設定が「OF」のときは、⑦が表示されません。
★2　⑬の設定が「OF」のときは、⑭が表示されません。
初期値とは、工場出荷時の設定を意味します。

■ 設定モードで設定するには

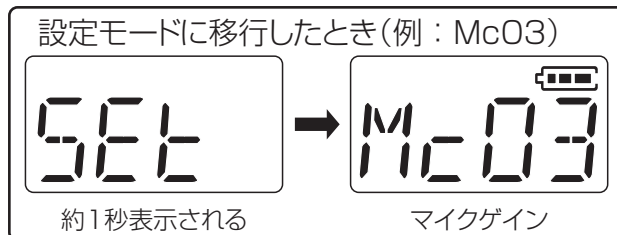
電源を切る

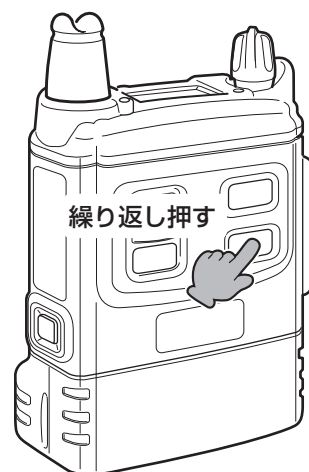
[電源/音量]ツマミを**「カチッ」**と音がするまで、左に回します。

■ 設定モードで設定するには(つづき)

2 設定モードで起動させる

[▲]と**[▼]**スイッチを同時に押しながら、**[電源/音量]**ツマミを回します。

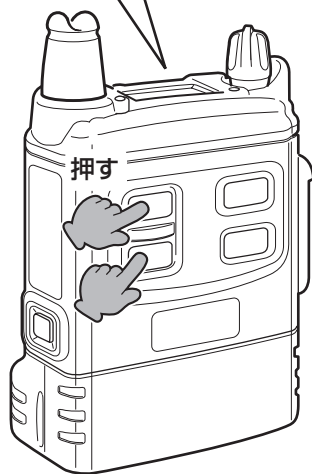
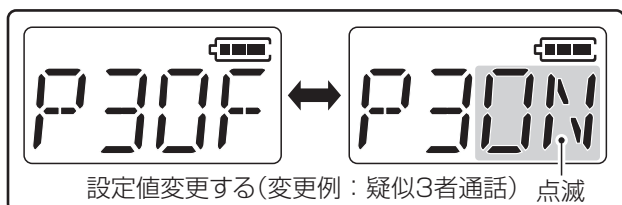
● **「ピピッ」**と鳴り、「SEt」を表示(約1秒)後、設定項目(例表示:Mc03)が表示されます。

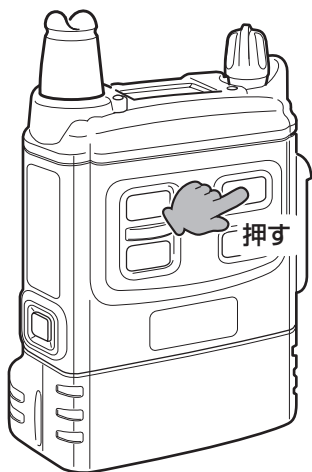
※設定モードのときは、通話できません。

3 設定項目を選択する

[機能]スイッチを繰り返し押して、設定項目を選択します。

■ 設定モードで設定するには(つづき)

4 設定値を変更する

[▲]、または[▼]スイッチを押します。
- 変更すると、設定値が点滅します。

※手順3と4の操作を繰り返して、一覧表に記載のほかの設定項目も設定します。

5 設定を終了する

[通話]スイッチを押します。
- 「ピー」と鳴り、設定値が確定され、設定モードが解除されます。

■ 設定項目について

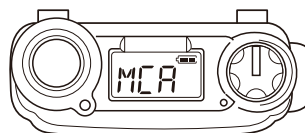
①マイク感度　(出荷時の設定:Mc03)

接続されたマイクロホンの感度を設定します。
- 選択範囲:1(低い)〜5(高い)

※周囲の騒音が大きい場所
低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

※周囲の雑音が小さい場所
高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

②反転表示　(出荷時の設定:dP N)

本製品を腰などにかけたとき、表示部に表示される内容を、上下反転させて見やすくする設定です。
- dP N:反転しない

- dP R:反転する

③接続ケーブルの選択　(出荷時の設定:CbSt)

マイクロホンの接続ケーブル(別売品)に取り付けられたマイクスイッチの動作を有効にする設定です。
- CbSt　:無線機本体の[通話]スイッチの動作を有効にする

※OPC-661(接続ケーブル)を接続するとき、選択します。
- CbSW:無線機本体の[通話]スイッチの動作を無効にする

※OPC-636/OPC-2277(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)を接続するとき、選択します。

■ 設定項目について(つづき)

④ **送信出力** (出荷時の設定:Po01)

送信出力を切り替えます。

●Po01:1mW

●Po10:10mW

※通話相手となるすべての無線機と同じ送信出力に設定してください。
設定が異なる相手との通話は、できません。

※「10mW」設定時、右図のように、★印を表示します。(表示例:Ch01)

⑤ **スケルチレベル** (出荷時の設定:Sq02)

受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチレベルを設定します。

●選択範囲:0(オープン)、1(浅い)〜5(深い)

※設定値が小さい(浅い)ときは弱い信号でも受信できますが、設定値が大きい(深い)ときは強い信号だけを受信します。

⑥ **個別呼び出し** (出荷時の設定:IcOF)

グループに所属する複数の相手の中から、呼び出したい相手だけを個別に呼び出すとき、設定します。

●IcOF :使用しない

●IcON :使用する

⑦ **自局番号** (出荷時の設定:Id01)

個別呼び出し機能で使用する無線機に割り当てる個別番号の設定です。

●選択範囲:01〜99

※[個別呼び出し](⑥)の設定が「IcON」のとき表示される項目です。

⑧ **自局グループ番号** (出荷時の設定:Gr01)

MCAやチャンネル番号での呼び出し、または個別呼び出し機能によるグループ呼び出しで使用する無線機に割り当てる自局グループ番号の設定です。

●選択範囲:00〜99

※この自局グループ番号と同じ無線機が一斉に着信します。

※グループ呼び出しを使用しない設定で使用する場合、自局グループ番号が異なる相手とは通話できませんので、ご注意ください。

⑨ **疑似3者通話** (出荷時の設定:P3OF)

親機(呼び出した局)と子機(応答した局)の通話を、通話エリア内のほかの子機でも聞けるようにするとき、呼び出しに使用する無線機(親機)に設定します。

●P3OF :通話エリア内のほかの子機は、親機の通話内容だけが聞ける

●P3ON :通話エリア内のほかの子機は、親機と子機の通話内容が聞ける

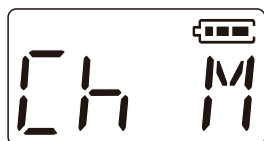
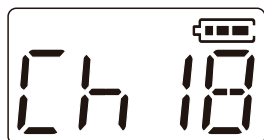
※[1対N(複数)同時通話](⑪)の設定(☞P7-4)が、「1n n」に設定された無線機で使用できます。

■ 設定項目について(つづき)

⑩ チャンネル (出荷時の設定:Ch18)

選択できるチャンネルの範囲を設定します。

●Ch18:Ch01〜Ch18、MCA
●Ch27:Ch01〜Ch27、MCA
●Ch M :MCA

※MCAは、無線機の**[通話]**スイッチが押されると、Ch01〜Ch18の範囲で、自動的に空きチャンネルを探し出し、その空きチャンネルへ自動で移動して通話できるシステムのことです。

⑪ 1対N(複数)同時通話 (出荷時の設定:1n 1)

特定の人(1対1)とだけ同時通話するか、複数の人(1対N)が一斉に呼び出されたとき、応答した人とだけ同時通話するかを設定します。

●1n 1:1対1(ペア)同時通話
●1n n:1対N(複数)同時通話

※1対N(複数)同時通話では、応答した人が通話を切るまで、グループの別の人は応答できません。

※通話相手となるすべての無線機と同じ設定にしてください。
設定が異なる相手とは、通話できません。

⑫ 受信専用 (出荷時の設定:RoOF)

無線機を受信専用にする設定です。

●RoOF:受信専用で使用しない
●RoON:受信専用で使用する

※受信専用に設定すると、呼び出しを受けても、他局(受信専用で使用しないほかの無線機)が応答するまで、受信状態になりません。

⑬ 秘話 (出荷時の設定:SEOF)

他局に通話内容を盗聴されるのを防止する設定です。

●SEOF :使用しない
●SEON :使用する

※秘話を設定すると、秘話を設定しない相手には、通話内容が正しく聞き取れません。

⑭ 秘話コード (出荷時の設定:Cd14)

秘話機能で通話する相手の無線機と同じ秘話コードを設定します。

●選択範囲:01〜16

※通話するすべての無線機で、同じ設定にしてください。

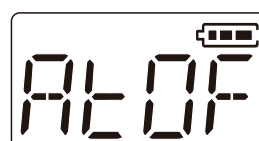
※[秘話](⑬)が「SEON」に設定されると、表示される項目です。

※秘話コードは、工場出荷時の値から変更して使用することをおすすめします。

⑮ オートパワーオフ (出荷時の設定:AtOF)

待ち受け状態で音量調整以外に何も操作しない状態がつづくと、オフタイマーがスタートし、自動的に無線機の電源が切れる時間の設定です。

●AtOF :使用しない
●At1H :1時間後に切る
●At2H :2時間後に切る
●At4H :4時間後に切る
●At8H :8時間後に切る

※オフタイマーが動作中に、呼び出しを受けたり、途中で操作(音量調整を除く)したりすると、オフタイマーがその時点から再スタートします。

■ 設定項目について（つづき）

⑯ 自動再接続　　（出荷時の設定：AcON）

電波が届かなくなったなどで、呼び出した相手との通話が切れたとき、2秒後に、自動で再接続をする設定です。

- ●AcOF ：使用しない
- ●AcON：使用する

※呼び出しに使用する無線機に設定すると、使用できます。

⑰ パワーON自動接続　　（出荷時の設定：PcOF）

無線機の電源を入れるだけで、通話相手を自動で呼び出して接続するとき設定します。

- ●PcOF ：使用しない
- ●PcON：使用する

※特定の人（1対1）とだけ同時通話するような場合などに使用します。

8 別売品とその使いかた

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。
弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

[★]印のものは、無線機本体に装着することで、IPX7(防浸形)の防水性能になります。

バッテリー関係

BP-238N★ :リチウムイオンバッテリーパック(補修用)
BP-239 :アルカリ電池ケース
(単3形アルカリ乾電池×2本)

充電する

BC-161 #01 :卓上急速充電器
※電源には、別売品のBC-165が必要です。
BC-165 :ACアダプター(BC-161 #01用の電源)

無線機を保護する

LC-160 :ハードケース
LC-182 :ハードケース(補修用)

スピーカー関係

EH-11 :イヤーパッド型スピーカー(プラグ:φ2.5mm)
※8-5ページと併せてご覧ください。

EH-12 :ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ:φ2.5mm)
※HS-86、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。

イヤホン関係

EH-13 :耳かけ型イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※HS-86、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。

EH-14 :オープンエアー型イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-149のいずれかでお使いになれます。

EH-15 :イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※EH-15B(黒色)
※HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-149のいずれかでお使いになれます。
※HM-123には、EH-15が付属しています。

■ 別売品一覧表(つづき)

マイクロホン/ヘッドセット関係

HM-104 :単一指向性タイピン型マイクロホン
※HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)
※EH-12、EH-13、EH-14、EH-15、EH-15Bのいずれか、およびOPC-636、OPC-661、OPC-2277のいずれかでお使いになれます。

HM-123 :本体取り付け型マイクロホン
(EH-15:イヤホン付属)

HM-149★ :防水コネクター付きタイピン型マイクロホン
※コネクター部分だけが防水仕様
※EH-14、EH-15、EH-15Bのいずれかでお使いになれます。

HS-86 :ヘルメット取り付け型ヘッドセット
※8-5ページと併せてご覧ください。

HS-88 :ヘッドセット
※OPC-636、OPC-661、OPC-2277のいずれかでお使いになれます。

HS-92 :ヘルメット取り付け型ヘッドセット
(ワニ口クリップで固定)
※8-5ページと併せてご覧ください。

HS-95 :ネックアーム型ヘッドセット
※VS-2SJ(別売品)と併せてご用意ください。

HS-99 :耳かけ式イヤホンマイク
※VS-2SJ(別売品)と併せてご用意ください。

OPC-636 :マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル
(ロック仕様)
※8-5ページと併せてご覧ください。

OPC-661 :接続ケーブル(マイクスイッチなし)
※8-5ページと併せてご覧ください。

OPC-2277 :マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル
※HS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。

VS-2SJ :VOXユニット
※IPX4の防水性能
※8-5ページと併せてご覧ください。

腰にかける

MB-104 :ベルトクリップ

肩にかける

MB-57L :ショルダーストラップ
※LC-160、LC-182のいずれかでお使いになれます。

■ 安全な充電のために

⚠危険

◎充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
◎指定(BP-238N)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
◎「安全上のご注意」(☞Pv～Pix)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

⚠警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

■ バッテリーパック使用時の使用時間と充電時間

名称 / 定格項目		BP-238N
電池の種類		リチウムイオン
電池の容量		1350mAh min. /1400mAh typ.
出力電圧		3.7V
寸法 (幅×高さ×奥行)		58×32×21
		【条件】突起物は含まず/【単位】mm
使用時間 送信出力	1mW	約14時間
	10mW	約12時間
【条件】		連続通話状態
充電時間		BC-161 #01:約2.5時間

※バッテリーパックを装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。
※バッテリーパックに異常があると思われたときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 正しい充電のために

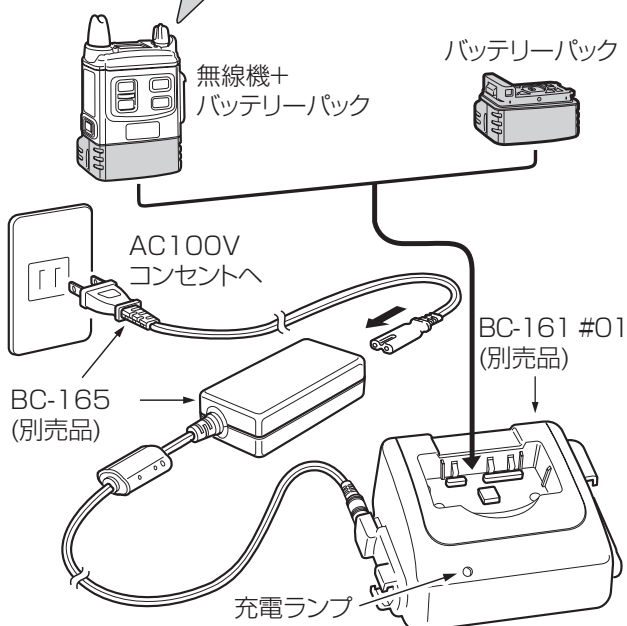
バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。

◎お買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
◎バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
◎満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、残量表示が▭の状態になるまで使用し、無線機から取りはずした状態で保管してください。
◎極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
充電器は、次の環境でご使用ください。
BC-161 #01(卓上急速充電器):0～40℃
◎バッテリーパックは消耗品ですから、充電を繰り返すと運用時間が少しずつ短くなります。
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパックをご購入ください。
◎充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで定期的にお手入れをしてください。

■ 充電のしかた

ご購入後、はじめて、ご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。
※充電器は、付属していません。
BC-161 #01とBC-165(BC-161 #01の電源)を別途ご購入ください。
※BC-161 #01の電源には、必ずBC-165をご使用ください。

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。
充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

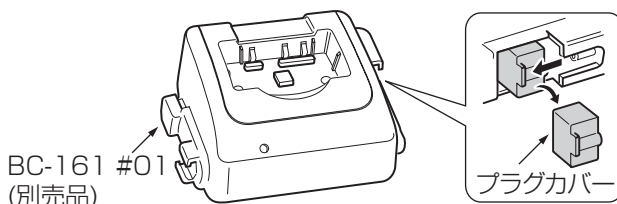
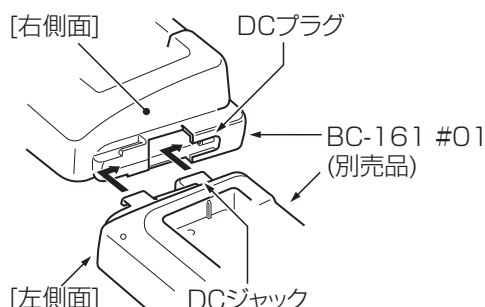
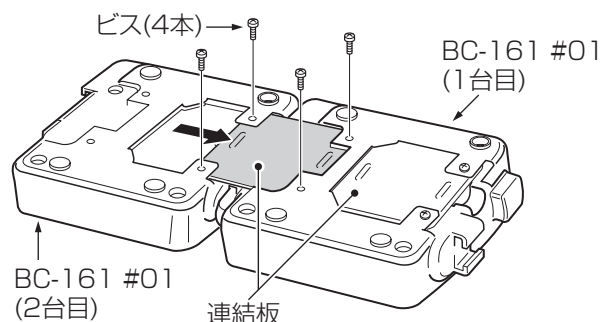
充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
※電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。

【充電中に充電器のランプが赤色点滅になるときは】
無線機の電源を入れた状態で充電しているときは、無線機の電源を切った状態で充電してください。
※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ BC-161 #01の定格について(別売品)

定格入力電圧:DC15V
※ACアダプター(別売品:BC-165)を使用時
使用温度範囲:0～40℃
重　　　量:約225g
寸　　　法:122.5(W)×59.7(H)×95.0(D)mm
※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

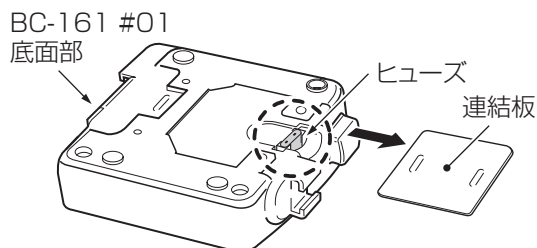
■ 連結充電について

充電器(BC-161 #01)を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

①充電器の右側面に差し込まれているDCプラグカバーを図の方向に取りはずします。

②右側面にあるDCプラグと、もう1台のBC-161 #01(左側面)にあるDCジャックを「**カチッ**」と音がするまで差し込みます。

③底面部(2台目の充電器)にある連結板を固定するビス(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器のほうに移動させます。
取りはずしたビス(2本)と充電器に付属のビス(2本)で連結板を固定します。

⚠警告

BC-161 #01を連結して充電できるのは、最大4台までです。
5台以上を連結して充電しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

■ BC-161 #01のヒューズ交換について

ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。

■ BP-239(アルカリ電池ケース)

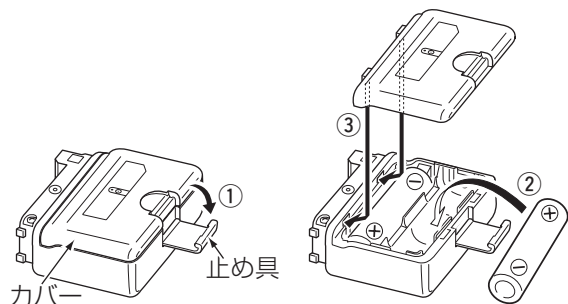
下記の手順を参考に、単3形アルカリ乾電池(2本)をアルカリ電池ケースに入れます。

※アルカリ電池ケースは、防水構造ではありません。

【電池の入れかた】

①止め具に指をかけ、矢印の方向に開いて、カバーをはずします。

②極性を間違えないように注意しながら、アルカリ乾電池を入れます。

③カバーを取り付け、止め具で固定します。
「付属品の取り付け」(☞P1-1)を参考に、BP-239を無線機に取り付けます。

■ 運用時間(アルカリ電池ケース使用時)

使用時間	送信出力	1mW	約12時間
		10mW	約9時間30分
	【条件】		連続通話状態

※使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。
また、アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

■ アルカリ電池ケースを正しくご使用いただくために

⚠危険

アルカリ電池ケース(BP-239)は、単3形アルカリ乾電池専用です。
アルカリ乾電池以外の電池を入れないでください。
破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

⚠警告

電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。また、種類の異なる電池を混ぜたり、新しい電池と古い電池を混ぜたりして使用しないでください。
破裂、発熱、液もれ、けがの原因になります。

◎アルカリ電池ケースは、防水構造ではありません。

◎単3形アルカリ乾電池の⊕(プラス側)と⊖(マイナス側)の極性を間違えないように入れてください。

◎アルカリ電池ケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると電源が切れます。

◎アルカリ電池ケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、定期的にお手入れをしてください。

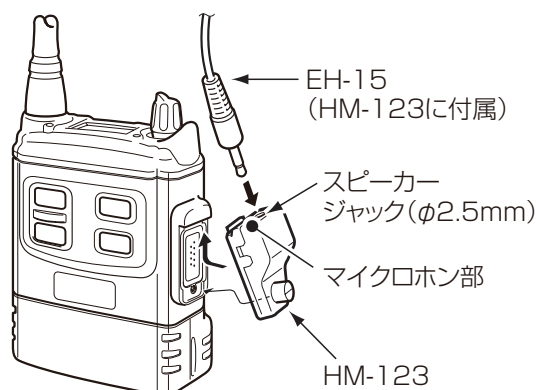
◎アルカリ乾電池の種類により、運用時間が異なることがありますので、ご注意ください。

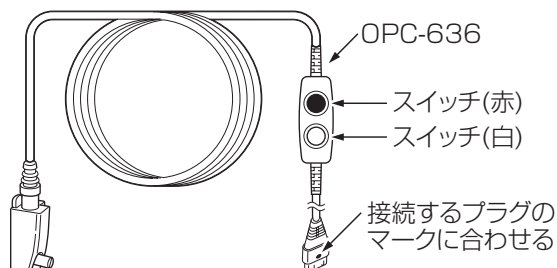
◎アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

◎アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

■ HM-123(本体取り付け型マイクロホン)

別売品のEH-12、EH-13、EH-14のいずれかでお使いになれます。

※HM-123には、イヤホン(EH-15)が付属しています。

■ OPC-636（マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル）/OPC-661（接続ケーブル）

HS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。

〈OPC-636の場合〉

OPC-636使用時の自動再接続機能やパワーON自動接続機能の動作については、本書6-2ページをご覧ください。

赤色のスイッチは、ノンロック（未固定）式です。

※白色のスイッチが出ている（出）とき使用できます。

● ：押しているあいだだけ、呼び出し、または応答できる

● ：呼び出した局は、はなすと通話が切れる
応答した局は、はなすと呼び出しを受けたときの状態（状態表示ランプが緑色で点灯）に戻る

白色のスイッチは、ロック（固定）式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれていると無効です。

● ：押し込む（入）と、呼び出し、または応答できる

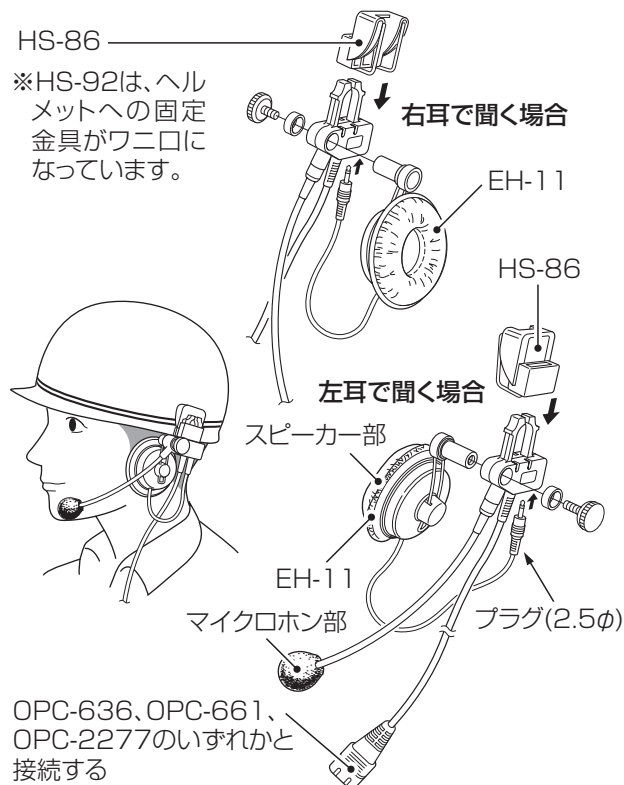
● ：呼び出した局は、出ている（出）と通話が切れる
応答した局は、出ている（出）と呼び出しを受けたときの状態（状態表示ランプが緑色で点灯）に戻る

〈OPC-661の場合〉

マイクスイッチが付いていない接続ケーブルです。

※通話は、無線機本体の**[通話]**スイッチを使用します。

■ HS-86/HS-92（ヘルメット取り付け型ヘッドセット）とEH-11（イヤーパッド型スピーカー）の組み立て

EH-11、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15、EH-15B、およびOPC-636、OPC-661、OPC-2277のいずれかでお使いになれます。

■ VS-2SJ（VOXユニット）

HS-95、HS-99のいずれかと併せてご用意ください。

VS-2SJ使用時の自動再接続機能やパワーON自動接続機能の動作については、本書6-2ページをご覧ください。

※**[通話]スイッチ**以外の部分は、VS-2SJに付属の説明書をご覧ください。

ノンロック（未固定）式

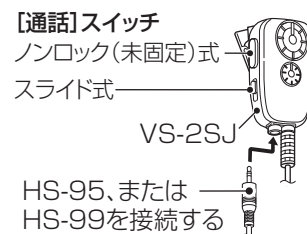
押しているあいだだけ、呼び出し、または応答できます。

※呼び出した局は、はなすと通話が切れます。
応答した局は、はなすと呼び出しを受けたときの状態（状態表示ランプが緑色で点灯）に戻ります。

スライド式

上にスライドさせると、呼び出し、または応答できます。

※呼び出した局は、スライドを戻すと通話が切れます。
応答した局は、スライドを戻すと呼び出しを受けたときの状態（状態表示ランプが緑色で点灯）に戻ります。

9 保守について

■ 日常の保守と点検について

◎ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
　洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
　また、バッテリーパック(BP-238N)やアルカリ電池ケース(BP-239)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎無線機本体、充電器(BC-161 #01)、バッテリーパック、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
　各端子は、乾いた布などで定期的にお手入れしてください。

◎使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示(☞P2-2)を確認してください。
　また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。

◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。

◎音量が最小に調整されていないか、確認してください。

■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守について

本製品は、IP67を保証(ご購入より1年間)している無線機です。
この防水性能を維持するためにも、保証期間経過後は定期点検(年1回)の実施をおすすめします。
また、防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。
定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
弊社サポートセンターへのお問い合わせ先については、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ をご覧ください。

■ 従来製品との相互使用について

従来製品と相互に使用するときは、IC-4855をお使いください。

★本製品の秘話機能を使用する場合は、IC-4855と相互使用できません。

■ 故障かな？と思ったら

下記のような現象は、故障ではありません。
修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈現　象〉充電中に充電器のランプが赤色点滅になる
　〈原　因〉無線機の電源を入れた状態で充電している
　　処置:無線機の電源を切った状態で充電する
　　※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

〈現　象〉充電が完了(充電器のランプが緑色に点灯)しない
　〈原　因〉無線機の電源を入れた状態で充電している
　　処置:無線機の電源を切った状態で充電する

〈現　象〉電源が入らない
　〈原因1〉電池をアルカリ電池ケース(BP-239)に入れるとき、極性を間違えている
　　処置:極性を確認して、アルカリ乾電池を入れなおす
　〈原因2〉バッテリーパック(BP-238N)、またはアルカリ電池ケースの接触不良
　　処置:アルカリ電池ケースの電池端子、またはバッテリーパックの充電端子を清掃する
　〈原因3〉バッテリーパック、またはアルカリ乾電池の消耗
　　処置:バッテリーパックの場合は充電し、アルカリ電池ケースの場合は新しいアルカリ乾電池と交換する
　〈原因4〉バッテリーパックの場合、過放電保護回路が動作している
　　処置:無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる

〈現　象〉表示部の表示が変化しない
　〈原　因〉ロック機能が動作している
　　処置:ロック機能を解除する(☞P6-1)

〈現　象〉接続ケーブルのイヤホンから音が聞こえない
　〈原　因〉音量が最小に調整されている
　　処置:ツマミの位置を確認する(☞P1-2)

■ 故障かな？と思ったら（つづき）

〈現　象〉通話できない（応答がない）

〈原因1〉 送信出力の設定が相手局と異なる（☞P7-3）
処置：送信出力の設定を同じにする

〈原因2〉 1対N（複数）同時通話の設定が相手局と異なる（☞P7-4）
処置：1対N通話の設定を同じにする

〈原因3〉 相手局と距離がはなれすぎている
処置：場所を移動してから交信してみる

〈原因4〉 相手局が不在、または電源を切っている
処置：相手局の状態を確認する

〈原因5〉 チャンネルが相手局と合っていない
処置：相手局とチャンネル（MCA、Ch01〜Ch27）を同じにする
個別番号選択モードでご使用の場合は、相手の自局グループ番号（Gr00〜Gr99）、自局番号（SC01〜Sc99）を選択する

〈現 象〉送信できない（ビープ音が「ブッ」と鳴る）

〈原因1〉 通話時間の制限（3分）が過ぎたとき（☞P5-8）
処置：約2秒後、もう一度、呼び出しをする

〈原因2〉 ほかの局が同じチャンネル番号で送信している
処置：混信防止機能（☞P5-8）が動作していますので、他局の通話が終了してから送信するか、チャンネル番号を変更してから送信する

〈原因3〉 **[通話]** スイッチを押すと、「onLy」が表示される
処置：受信専用機能（☞P6-2）の設定を「Ro OF」に変更する

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな？と思ったら」（☞P9-1、P9-2）にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● **保証書について**
保証書は販売店で所定事項（お買い上げ日、販売店名）を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● **弊社製品のお問い合わせ先について**
お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先：アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313（フリーダイヤル）
◆ **携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、**
06-6792-4949（通話料がかかります）
受付（平日 9:00〜17:00）
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

● 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ をご覧ください。